

# 令和4年度法人トピックス⑤

## SDGs の取組み

SDGs とは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略です。

当会は、SDGs に賛同し、以下の 4 つの視点を主軸に、持続可能な社会の実現に向けて積極的な取り組みを行ってまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【利用者本位の安全・安心なサービスの提供 ～利用者・保護者の視点～】

### 一貫した福祉を保証



児童期から高齢期まで幅広いニーズに対応するための事業展開を行っています。法人理念の「一貫した福祉を保証する」と記す通り、利用者本位の安全・安心な質の高いサービスを心がけ、利用者が望む過ごし方や支援を今後とも提供していきます。

【働きがいのある職場環境 ～職員の視点～】

### 介護ロボット機器の導入



すぎのこ会では、介護ロボットの導入を積極的に行っています。介護ロボットとは、「利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器」のうち、「情報を感知」、「判断し」、「動作する」機器を「介護ロボット」と定義されています。移乗支援の「Hug」という機器は、利用者が車椅子からトイレなどに移乗する際に抱える負担を少なくするために導入しました。介護コミュニケーションロボット「パルロ」は、会話や体を動かすレクリエーションを行ってくれます。他にも、「眠りスキャン」など把握に役に立つ機器を導入して職員の負担軽減に役立っています。



【地域に根差し、地域貢献を行う社会福祉法人 ～地域の視点～】

## DWATへの参加



災害時における福祉分野のオフィシャル支援チーム「DWAT (Disaster Welfare Assistance Team)」の活動にすぎのこ会も参加しています。「DWAT」とは、大規模な災害が起きた後に避難してきた方々の中でも、障害のある方や高齢者などの「要配慮者」の二次被害を防ぐ為に構成されたチームです。避難してきた「要配慮者」の方々からニーズを聞き取り、福祉の専門職の視点から、必要な支援やサービスに繋げて生活の再建への橋渡しをします。令和4年度は栃木県総合防災訓練に職員3名が参加しました。

日々「福祉」と向き合っているからこそできる支援を災害時でも発揮できるように備えていきます。

## 心のバリアフリー冊子作成、配布



心のバリアフリーの取り組みとして、小学校高学年向けに小冊子の作成を行いました。みんなが暮らしやすい世の中を作る為に知ってもらいたい事を、分かり易い様に、職員同士で様々な意見を出し合い考えました。作成後は、地域の小学校に行き、5、6年生に渡して頂きました。受け取っていただいた先生からは「良い取り組みだと思ふ為、今後も続けていただきたい」と好評の言葉を頂きました。今後は冊子の配布以外に、実際に交流を通して福祉に対して知ってもらう機会を設けていければと思います。

【地球・地域環境への配慮 ～環境への視点～】

## エコキャップ回収活動



利用者の方やご家族・職員・法人内事業所・地域の社会福祉協議会等の協力により集まったペットボトルのキャップを分別し、業者へ納品します。作業工程としては、回収、洗浄、分別、計量、納品があり、利用者の皆さんはそれぞれ得意な作業に取り組んでいます。納品されたエコキャップはリサイクルされ、新しい製品に生まれ変わるほか、世界の子どもたちのワクチンにもなります。

